

洪水ハザードマップ

長万部川洪水浸水想定区域図



保存版

2020年11月

●普段から目を通しておいください。●保管して災害時に役立ててください。

災害用伝言サービス

安否情報などを家族や知人に知らせる方法を家族で確認しておきましょう

災害用伝言ダイヤル 171

大規模な災害が発生し、安否確認等の電話によって電話自体が不通し、電話が繋がりにくい状況でも、伝言の録音・再生により、被災地内の家族や親戚・知人等と連絡を可能にする「声の伝言板」です。

録音 171 → 1 → □□□□□□ → 伝言の録音

再生 171 → 2 → □□□□□□ → 伝言の再生

※詳しい内容はNTTのホームページで確認してください。 <https://www.ntt-east.co.jp/baigai/voice171/>

非常時持ち出し品の準備 & チェック

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから災害復旧までの数日間(最低3日)を生活できるよう備蓄し準備・点検しておきましょう。

非常時持出品(例) 事前に準備できているか、チェック☑しましょう。

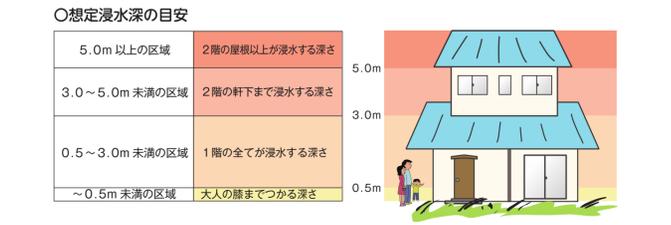
携帯ラジオ	救急医療品
<input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 電池 (多めに用意)	<input type="checkbox"/> 持病薬 <input type="checkbox"/> 傷薬 <input type="checkbox"/> 風邪薬 <input type="checkbox"/> 鎮痛剤 <input type="checkbox"/> 体温計 <input type="checkbox"/> 消毒液
<input type="checkbox"/> 絆創膏 <input type="checkbox"/> 包帯 <input type="checkbox"/> 胃腸薬 <input type="checkbox"/> お薬手帳 <input type="checkbox"/> マスク	
貴重品	懐中電灯
<input type="checkbox"/> 現金 <input type="checkbox"/> 印鑑 <input type="checkbox"/> 健康保険証	<input type="checkbox"/> 懐中電灯 (出来れば一人にひとつ) <input type="checkbox"/> 電池 (多めに用意)
<input type="checkbox"/> 預金通帳 <input type="checkbox"/> 免許証 <input type="checkbox"/> 権利証書	
非常食品	その他
火を通さずに食べられるもの、食器など <input type="checkbox"/> カンパン <input type="checkbox"/> 非常用食品 <input type="checkbox"/> 缶切り <input type="checkbox"/> 紙皿 <input type="checkbox"/> 水筒	<input type="checkbox"/> 缶詰 <input type="checkbox"/> ミネラルウォーター <input type="checkbox"/> 栓抜き <input type="checkbox"/> 紙コップ
<input type="checkbox"/> 衣類 (下着・上着など) <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> 離乳食 <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ <input type="checkbox"/> ヘルメット <input type="checkbox"/> ラップフィルム <input type="checkbox"/> (止血や食器にかぶせて使う) <input type="checkbox"/> 洪水ハザードマップ	<input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 粉ミルク・液体ミルク <input type="checkbox"/> 紙おむつ <input type="checkbox"/> 雨具 <input type="checkbox"/> ライター <input type="checkbox"/> 防寒具 (時季による)

非常時持出品は定期的に点検を!

非常時持出品は、使用ときに支障のないように、定期的に点検しておきましょう。とくに食品や飲料水の賞味期限はまめにチェックし、賞味期限が過ぎたものから順に入れ替えておきましょう。

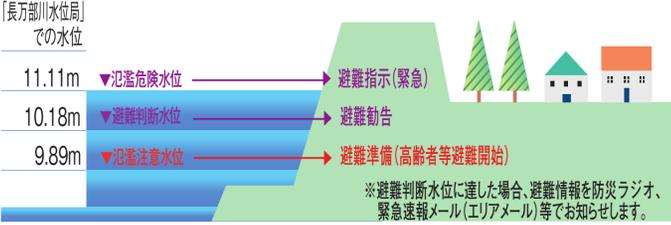
浸水想定区域について

- このハザードマップで使用している浸水情報は、水防法の規定により指定された浸水想定区域を示したもので、長万部川が大雨により氾濫した場合、浸水が予想される区域と浸水の深さを示しています。
- 自分の住んでいる地区がどの程度浸水するか確認してください。
- このハザードマップには「想定最大規模」の浸水想定区域及び浸水した場合に想定される水深を示しています。
- 雨の降り方によっては、想定とは異なる浸水の深さとなったり、地図に表示された浸水区域以外でも浸水する可能性があります。
- 川が氾濫しない場合でも、低い土地などは浸水被害(床上・床下浸水など)が起こる場合がありますので十分注意してください。



洪水情報の種類

- 洪水の危険性が高まった際に発表される情報
- 洪水注意報(気象庁)**
洪水によって災害が発生するおそれがある場合、注意を呼びかける予報です。
 - 洪水警報(気象庁)**
洪水によって重大な災害が発生するおそれがある場合、警戒を呼びかける予報です。
- 長万部川については次の基準を目安として避難を呼びかけます。



わが家の防災・緊急情報メモ

災害時・緊急時の連絡先などの情報をまとめておきましょう。災害時に救助の方や、緊急時に救急隊・医療機関・町に情報を提供します。

緊急情報

わが家の避難所

施設名	電話番号

家族の連絡先

家族の名前	連絡先(勤務先・学校など)	電話番号	携帯電話番号

[メモ] ※書ききれなかった内容や、知ってほしい情報(介護情報・救急隊員への伝言など)をお書きください。

情報発信

「長万部町防災ラジオ」は災害時における災害状況などの緊急情報や、日ごろの防災情報、町からのお知らせなど、さまざまな情報をお届けしております。是非、ご利用ください。特に災害時には、聞きもらさないようご注意ください。

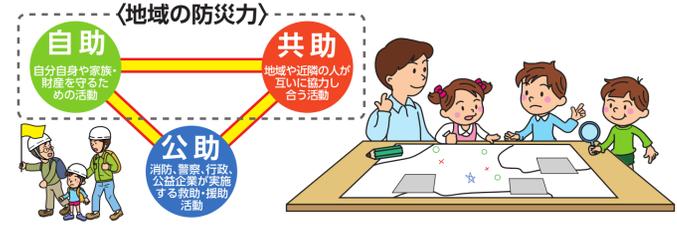
防災関係機関一覧(緊急連絡先)

消防・救急 119番		警察 110番	
名称	住所	電話番号	
長万部町役場	長万部町字長万部453-1	01377-2-2000(代)	
長万部町消防本部	長万部町字長万部450-21	01377-2-2049	
八雲警察署 長万部交番	長万部町字長万部183-2	01377-2-2312	
長万部町立病院	長万部町字長万部18-40	01377-2-5611(代)	
函館建設管理部 八雲出張所	八雲町立岩83-1	0137-63-3111	
函館開発建設部 八雲道路事務所	八雲町東雲町23	0137-63-3153	

災害に備える

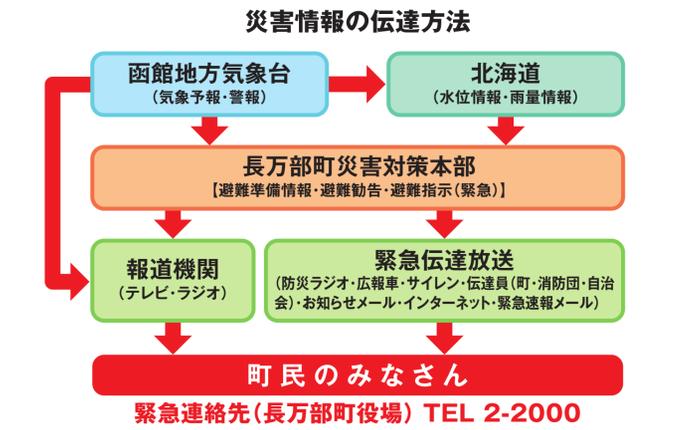
災害発生時には、自助・共助・公助の連携により人的・物的被害を軽減することができます。ひとたび大規模な災害が発生したときには、公的機関が行う活動(公助)は交通網の寸断や同時多発火災により十分対応できない可能性があるため、個人の方で災害に備える(自助)とともに、地域での助け合い(共助)による地域の防災力が重要になります。

「自主防災組織」活動を通じて、共助の強化、地域の防災力の強化に向けた取り組みを始めてみましょう。



災害に立ち向かうためには、ご家族や地域で「防災用品などを日ごろから備える」、「自分の家の安全対策をしておく」、「地域の危険箇所を知る」、「災害時の連絡方法や避難方法について話し合う」など、日ごろからの「備え」と「心構え」が必要です。

「長万部町洪水ハザードマップ」には、浸水想定区域・避難所等の災害時に避難を判断する際に必要な情報を掲載しています。



風水害対策について

大雨情報をキャッチ! こんなときのわが家の安全対策。

数日に渡る長時間大雨情報…
 数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測したり、解析したりしたときに、各地の気象台が発表します。函館地方気象台の長万部町発表基準は、1時間雨量100mmとなっています。

- 大雨注意報** 大雨による土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想したときに発表
- 大雨警報** 大雨による重大な土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想したときに発表
- 大雨特別警報** 台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合に発表

※は、確実な情報が大半その次に迅速な対応

雨の強さと降り方

時間雨量(mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る。	どしゃ降り。	バケツをひっくり返したように降る。	海のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。

風の強さと吹き方

平均風速(m/秒)	10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～25未満	25以上～30未満	30以上～
予報用語	やや強い風	強い風	非常に強い風	猛烈な強い風	猛烈な風
人への影響	風に向かって歩かなくなる。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	何かにかまけてないといわれない。	飛来物によって負傷するおそれがある。	屋外での行動は極めて危険。

台風の大きさと強さ

台風は、毎年のように日本に襲来し、きわめて大きな災害をもたらすことがあります。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速 15m/秒 以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	本州がまるごと覆われる	強い	33m/秒 以上～44m/秒 未満
超大型(非常に大きい)	北海道から九州まで覆われるほどに匹敵	非常に強い	44m/秒 以上～54m/秒 未満
		猛烈な	54m/秒 以上

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨です。発生する予測は比較的に困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、げけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

川の氾濫

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

- 外水氾濫…** 大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を超える。あるいは堤防が決壊させて川の水が外にあふれて起きる洪水。氾濫がおきると一気に水かさが増すので、最大の注意が必要。
- 内水氾濫…** その場に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはききれずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため注意が必要。

警戒レベルと取るべき行動について

町では、みなさんの生命に危険が及ぶと判断した場合、警戒レベルに応じて「避難準備・高齢者等避難開始」「避難勧告」「避難指示(緊急)」「災害発生情報」を発令し、みなさんに避難を促します。避難勧告などを発令するときは、様々な状況を相互的に判断して発令します。

警戒レベル	住民が取るべき行動	住民に行動を促す情報	
		避難情報等	
警戒レベル5 命を守るための最善の行動をとる	既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとります。	災害発生情報(可能な範囲で発令)	
警戒レベル4 危険な場所から全員避難	速やかに危険な場所から避難先へ避難しましょう。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や自宅内より安全な場所に避難しましょう。	避難勧告 避難指示(緊急)(緊急的又は重ねて避難を促す場合に発令)	
警戒レベル3 危険な場所から高齢者等は避難	避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は危険な場所から避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	避難準備・高齢者等避難開始	
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	洪水注意報 大雨注意報(気象庁が発表)	
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報(気象庁が発表)	

注意報・警報の種類

特別警報	大雨(土砂災害、浸水害)、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮
警報	大雨(土砂災害、浸水害)、洪水、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮
注意報	大雨、洪水、強風、風雪、大雪、波浪、高潮、雷、融雪、濃霧、乾燥、なだれ、低温、霜、着水、着雪
早期注意情報(警報の可能性)	大雨、暴風(暴風雪)、大雪、波浪

特別警報が発表されたら

- ・尋常でない大雨や津波等が予想されています。
- ・重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ・ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

詳しくは気象庁ウェブサイトをご覧ください
 気象警報・注意報 <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/bosai/warning.html>
 特別警報 <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/tokubetsu-keiho/>

水害時の心得

大雨、洪水情報に注意して事前避難を心がけましょう。

被害の軽減

扉の下の隙間から汚水が入ってくるので、「土のう」や板などで前面を囲み、タオルで隙間をふさぎます。また、ポリタンクなど軽い物は事前に屋内に移しましょう。

避難の呼びかけに注意を

危機が迫った時には、防災ラジオや広報車などから避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合には速やかに近所に声掛けしながら避難しましょう。

避難の前に確認を

避難する時は、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、床下の通気口などをふさぎ、戸締りを確認しましょう。

避難所までの移動

車での避難は、歩行者・緊急車両の妨げになります。また、浸水すると動かなくなるので使わないようにしましょう。風雨が激しくなる前に車両または徒歩で避難しましょう。風雨が激しくなってきたときは浸水の恐れがあるので車両ではなく徒歩で避難しましょう。

危険なところには近寄らない

切れた電線のそばなど、危険な場所に近寄らないようにしましょう。また、氾濫水には汚水が混ざっているため、子供などがさわらないように気をつけましょう。

動きやすい格好で

動きやすい服装で、軍手をはめ、ヘルメットがある場合はかぶり、はき物は水に浸かっても歩きやすいものを選びましょう。レインコートは上下が分かれているタイプが目立つ色のものがよいでしょう。

水面下は危険です。2人以上で避難を

浸水した場所を歩く時は、長い棒を杖がわりにして、マンホールや側溝がないか水面下の安全を確認し、2人以上での行動を心がけましょう。

歩ける深さ男性約70cm、女性約50cm

洪水の場合、歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cmまで。それ以上になったら高い場所で救助を待ちましょう。